

①



慈光

春 号

- ①お知らせ
- ②春季彼岸会案内
- ③行事案内
- ④住職のコラム

修正会

○寺院維持年会費 彼岸会志納の納入のお願い

春は何かと物入りではありますが、寺院維持年会費と春彼岸の志納を合わせてお願いいたします。

なお納骨堂をご利用の方は、別途、納入いただいておりますので、この御案内には該当しません。新檀家様 平成二十八年度からの方は、**別にお知らせ**をいたしますので、**別**確認下さい。

○春のお彼岸会 納骨堂参拝時間のお知らせ

彼岸会永代経法要 **三月二〇日(火) 二十一日(水)**

納骨堂参拝時間は、彼岸期間中十八日～二十一日まで。法要時間等の詳細は②頁をご覧ください。

○行事日程一部変更

公開講演会の日程を当初、六月九日(土)と御案内をしておりますが、**六月十七日(日)午後一時**に変更となりました。

また四月一日(日)の布教日ですが、この日は住職が不在となるため、**中止といたします**。申し訳ありません。

○慈光「徳助」はあそびかた

郵便料金の大幅な値上げにより、夏のお盆のお知らせは**封書**または**葉書**での御案内になります。お間違えのないようにお願いします。

② ○春季彼岸会 永代経法要

三月二〇日(火)・二一日(水) 午後一時より

※お昼ご飯をご用意しています。どうぞお召し上がりください。

※真宗講座 信について考える 住職

○納骨堂参拝時間

三月十八日(日)・二十一日(水)

午前九時から午後五時まで

※右記、納骨堂参拝期間中は供花を用意しております(五百円)。

※十八日(午後から)・十九日・二十日・二十一日は住職衆徒が在院しています。申経の方は、気軽におっしゃってください。なお用急詣りはお休です。

○公開講演会のお知らせ

六月十七日(日) 午後二時より 慈光寺本堂

演題 「落語の魅力」

講師 笑生十八番 むようせいおはい

公開講演会のお知らせです。このたびは、昨年、花まつりで来院下さいました笑生十八番師匠に、高座だけではなく、落語の魅力をお話しいただき、知識を持って落語を聞いてもらおうと企画をしました。

私は落語は素人ですが、一緒に勉強させてもらいたいと思っています。話術のプロにいろいろ聞いてみたいと思います。参加費は**無料**です。でお誘い合わせの上、いらして下さい。



○五月の行事予定

四月からは長男の龍谷大学入学式と本山法務、五月は小樽潜龍寺住職様の結婚式出席など、二月の末からの月詣り、四月上旬の月詣り、そして五月二十五日から二十八日まで月詣りの変更ならびに、お休みをいただくと檀家様がいっぱいいます。大変申し訳ありません。追ってご連絡をいたします。

五月二十六日(土)は木辺派小樽潜龍寺永谷大行住職様の結婚式があり、私どもは媒酌人の栄を賜りました。また次の日の二十七日(日)は、**婦人会二十周年記念コンサート**があります。二十八日は、後片付けが残ってしまう関係で、一部法務をお休みさせていただく場合があります。該当の皆様には大変申し訳ありません。

記念コンサート二胡奏者、姜暁艷様の簡単なプロフィールをご紹介します。

中国大連市生まれ、五歳から二胡を学ぶ。医学博士であり二胡奏者。現在、二胡演奏はもちろんな作曲、歌手、舞台監督など総合プロデューサー、またファッションデザイナーとして幅広いジャンルで活躍している。国境を越え、民族を超え、言語を越えて「いのちの尊さ 平和への願い」、慰しみの心「世界へ響け」、シルクロードへ仏教伝来の

道」をテーマに、アメリカや日本各地で数百回を超える仏教医学の講演会や二胡コンサート、テレビ出演をしている。医学博士として現代ストレス社会への悩みや自殺対策など、心のケアを講演、音楽療法を積極的に行っている。平山郁夫画伯の原爆の絵「広島生変図」をイメージして宇崎竜童から二胡の音色に合わせ、平和の願いを表現する「ソレロ ヒロシマ」を受け、平和への願いを世界に発信し続けている。また江戸時代の絵師 伊藤若冲の「蓮池図」と西本願寺の御影堂の内陣の蓮の花をイメージして作曲した「蓮心」の曲は好評でBGMとしても放送されている。平山郁夫画伯のシルクロード作品「月光砂漠行」をフィチュアして作曲した「Remember」も一度逢いたくての曲は、いのちの尊さを心に染み入る二胡の音色で表現し高い評価を得ている。二〇〇二年三月広島大学で医学博士号取得。

サポートとしておいでいただくピアノの小畑貴裕様は大変お忙しい方で、各プロバンドのキーボードとして活躍をしておられ、実は皆様は様々なところで、小畑様の演奏を聞いています。ただ、スタジオミュージシャンなので、名前が前面に出ないというのが、本人曰く寂しいところだそうです。北海道内でも活躍のお一人なので、一般にお知らせをすることから、堂内の混在が予想されます。檀家様が優先なので、ご参加希望の方は、お寺にお問い合わせ下さい。



住職さんにきいてみよう その42 救いの対象

お経には意味があるのですよね、とご質問を受けま
す。漢文で書かれていますので、確かに難しいですが、
物語があります。しばらく書いてある『無量寿経』も
同じです。

『無量寿経』の上巻は浄土真宗で重視されます。上
巻ではお釈迦様はまだ仏（阿弥陀仏）に成られておら
ず、菩薩の位でいました。それを「法蔵菩薩」（ほうぞ
うぼさつ）といいます。完全な仏になるために、四十
八の誓いを立てます。その第十八番目の誓いが、浄土
真宗ではとても重要であることは、以前書きました。
どんなことを誓われているのかというと、

私が仏と成るときに、すべての世界の人々が、心を一つ
に信じ願って、西方浄土へ生まれたいと願うこと、十念
（絶え間なく願うという単位）に至る。もしも、この想い
が通じず浄土往生できなければ、自分は仏とは成れない。
ただし、五逆罪（父を殺す。母を殺す。阿羅漢を殺す。僧
団を乱す。仏身を傷つける）と正しい教え（仏法）を謗つ
たりするものは除かれる。

かなり意識をしましたが、一番問題なのは、仏と成
るためには条件が書かれていますことです。つまり、五
逆罪と仏法を謗ることは大罪人として扱われ、仏に成

ることはできないということです。

第十八願のこの箇所は、多くの高僧たちの悩みであ
りました。悪いことをする者は救われない。それは世
の中では当然のことでしょう。親鸞聖人には、有名な
「悪人正機」という考え方があります。

善人なほもて往生をとぐ、いはんや悪人をや。しかるを世
の人つねにいはいく、悪人なほ往生す、いかにいはんや善人を
や。『歎異抄』第三条

善人は救われて当然なのに、悪人が救われないの
は、阿弥陀仏の本当の願いではない。悪人が救われな
いと思うのは、私たちの思い違いであるといわれま
す。この点には、詳細な説明があるので今は割愛しま
すが、誓いを立てながらも、救済に預かれないものが
生じるのは本意ではありません。

中国の高僧は様々な解釈をします。最終的には、必
ず仏は救ってくれると言うのですが。それぞれの高僧
の解釈をよく読んでみると、簡単には救ってくれない
ようです。高僧は、本当の仏法を聞くという姿勢が、
何よりも大切だと考えています。親鸞聖人も本来はそ
う考えていると思います。